

第4期中期目標期間終了時見込評価・意見一覧表 (地方独立行政法人岩手県工業技術センター第4期中期目標期間)

Ⅱ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項			
自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
A	A (3.83)	＜震災復興等への支援＞ - 令和6事業年度評価と同じコメントになるが、令和3年度開始を前提として策定された中期目標・中期計画に沿った評価を行うことは当然であるが、被災地が本センターに求める支援は復興の進展とともに変化するであろうことから、場合によっては期間中に目標・計画自体をそれに沿ったものに変更することもあり得ると考えられる。 - この「重点支援」企業とは、R6事業年度業務実績報告書にある「重点支援」(P7)と同じでしょうか。実績は10社/1年であり、50社/5年の目標とは意味が異なると思います。震災復興への支援はスピードある対応が必要です(早い年度に重点支援を受けられなかった企業は何年も待ちの状態であったと考えられますが)。 また、支援は、震災後～H30、R1～そして、R3～R7で支援をおこなっているようですが、そこには段階的な目標設定が必要と考えます。重点支援企業件数が目標達成したということだけでなく、支援内容の目標を決めて、それらがどの程度達成されたかを明示すべきと考えます。 - 中期目標を達成している。なお次期中期計画の策定にあたっては、被災12市町村における支援の内容が、他の地域と比較して東日本大震災津波からの復興という意味合いが強いのかどうか、を精査したうえで進められることが適当である。 ＜企業活動への技術支援＞ - 令和6事業年度評価と同じコメントになるが、清酒酵母の依頼加工のカウント方法を変更したということであれば、目標値についても、参考値でよいので、それに対応させた修正後の値を掲載してもよいのではないかと。 - 技術相談件数がR3以降、単調減少を示していることは見逃せない。この原因について分析はおこなっているのでしょうか。この傾向が続いた場合、R7の実績見込みは3000件を割ってしまうように見受けられました。 - 中期目標を達成している。R4年度に清酒酵母の依頼加工のカウント方法を変更した一方で、目標値は変更される前の基準がそのままR4からR7まで設定された状態である。このような変更や、装置の更新、廃棄に伴う依頼試験件数の変動が起こることは通常おこるものと考えられ	A

		る。そのため目標値も柔軟に変更できるようにすべきである。技術相談の解決率は高く、それぞれの案件に対し丁寧に対応し成果が上がっていると判断できる。大変多くの依頼試験に対応しており、かつ顧客満足度の高いことから、機器整備方針も含め企業などのニーズに十分応えられていると判断できる。大変多くの設備機器貸出に対応しており、かつ顧客満足度の高いことから、セミナーによる利便性向上の取り組み、機器整備方針も含め企業などのニーズに十分応えられていると判断できる。 <戦略的な研究開発> - 令和6事業年度評価と同じコメントになるが、研究に関しては報告もさることながら論文が評価の軸になるように思われる。であれば、論文数も指標の1つとして積極的に位置づけるとともに、査読期間などの関係で学会誌掲載が年度を超えることもあるので、今後は論文数については例えば3年間の移動平均で評価することも考えられる。知的財産創出も諸事情によってその権利等の取得が年度を超えることがあるため、学術論文と同じ考え方をしてもよいのではない。 「企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究」、技術シーズ創成のための研究」では、新規共同研究数、成果展開研究テーマ数など、「研究の数」の評価をおこなっているが、数だけではなく、「研究の質」についての評価（例、研究の新規性、重要性、画期的な成果など）も大切で、この点についてはどのように評価しているか。 知的財産創出件数がR4に続き、R6でも、目標件数に到達しておらず、R7の件数は未知数です。 - ほとんどの項目で中期目標を達成している。単独特許の出願が求められるとともに、関連特許の出願であったり、関連ノウハウの指定をしたりするなど強い知財を構築するためのアセット化の検討が必要である。 将来課題として、査読付き論文数の増加であったり、さらなる大型外部資金の獲得をしたりするなど、オリジナルな技術シーズ創成へのさらなる取り組みが求められる。 テーマ設定については、国内外の産業動向や技術動向を分析した上でのプロセスの見える化とアジャイルな見直しとそれに基づく計画変更がしやすくなるような制度設計が求められる。 <ものづくり産業及び地場産業への支援> - 共同研究件数はR4以降減少傾向にあり、R7の目標達成は未知数です。 <産業人材の育成> 「企業人材の高度技術化支援」及び「次代を担う産業人材の育成」については毎年度AAと評価してもよい水準に達し続けているため、この項目はAA評価でもよいように思われる。 - 中期目標を達成している。ただし、大学・大学院・産技短大のインターンシップの応募数を増やす取り組みが求められる。	
--	--	---	--

		<連携・協働の推進> ・ 中期目標を達成している。東北公設試との連携交流について、北東北公設試技術連携推進会議と中東北3県公設試技術連携推進会議の両方に参加し、情報・研究交流を行っていることは高く評価できる。 <情報の発信> ・ 令和6事業年度評価と同じコメントになるが、ホームページアクセス数のみならず、現在は「取り組み項目」になっている広報資料についてその発行回数を数値目標にしてもいいように思われる。 ・ 中期目標を達成している。	
--	--	---	--

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項			
自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
A	A (4.00)	＜組織運営の改善＞ - 令和6事業年度評価と同じコメントになるが、センターの業務に係る諸委員会の会議についても、その効率化や委員会の統合などについて検討してみてもよいように思われる。 - 中期目標を達成している。 ＜効果的・効率的な事務処理＞ - 中期目標を達成している。 ＜職員の意欲向上と能力開発＞ - 中期目標を達成している。 - 理事長表彰の制度を運用し多くの職員を表彰していることは評価できる。 - 職員満足度アンケートで、2割強の職員が満足していると回答しなかった点について、詳細な分析と丁寧なフォローアップが必要である。 ＜環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実＞ - 中期目標を達成している。 - 労働災害ならびに交通事故がゼロを継続していること、平均年次休暇取得日数が高いことが評価できる。 ＜コンプライアンスの強化及び社会貢献活動の実施＞ - コンプライアンスと社会貢献活動は全く別な内容であり、それぞれ別な項目として評価をおこなうべきと考える。事業実績見込にこれらが混在しており、違和感がある。 - 中期目標を達成している。	A

IV 財務内容の改善に関する事項			
自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
B	B (3.50)	＜外部研究資金その他の自己収入の確保＞ - 自己収入額であるが、ヘルステックイノベーションハブ使用料を除く自己収入額が確保できなかったことは事実であるが、その額は大きくはなく大きな問題ではない。 オリジナルシーズの強化に基づく外部資金の獲得に向けた取り組みを進めていただきたい。 ＜経費の抑制＞ - 中期目標を達成している。一般論であるが、エネルギー・水道料についても公用車燃料と同じく、管理指標を設けない方がよいと考える。光熱水量の削減のための一般的な取り組みがされていれば良いことであって、業務に必要なエネルギー・水道料に対して総量で制限をかけることは理にかなっていない。 ＜事業の効率化＞ - 中期目標を達成している。	B

Ⅴ その他業務運営に関する重要事項			
自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
A	A (4.00)	＜試験研究機器の整備・活用＞ ・ 中期目標を達成している。研究機器の導入、維持管理・修繕については岩手県工業技術センターでできることは十分対応していると判断できる。 ＜施設・設備の計画的な修繕・整備＞ ・ 中期目標を達成している。 ＜人事に関する計画＞ ・ 中期目標を達成している。	A

＜総合評価コメント＞

- 令和3年度～令和5年度の事業評価に係る議論に参加しておらず、これまでの議論のポイントを押さえていないため、令和6事業年度評価と同じコメントになるが、全体としてセンター業務の全体にきめ細かい目配りをした上で、ポイントを押さえた自己評価がなされているとできる。

ただ、「震災復興等への支援」など本中期目標・中期計画が策定された時点から状況が大きく変化しているものについては、目標・計画を変更することもあり得るだろうし、また、論文数や特許数など単年度で評価することが必ずしも適当ではないものについては評価方法の再検討が行われてもよいかもしれない。

- 第4期中期全体評価として、概ね計画通りとのことで全体評価をAとした。

しかし、知的財産の創造・保護・活用に部分に於いてこの部分も工技センターの骨子の一つであると認識していることから、年度目標8件に対し、4件について、「8件達成するように取り組みます」では厳しい。

目標に対し、未達成事項を深掘し、外部要因や内部要因等で時間を要するもの、技術的なものなどを解決し、令和7年度から目標を達成するように仕組みを見直すことも重要であるとする。

- 全般的にご説明頂いた内容を踏まえ自己評価の内容に違和感はなく、計画期間を通じて大半が目標を達成され、多くの項目で目標を達成されていることは評価されるべきものだと考えている。

小項目別で自己評価をBとされている項目については、財務内容の改善に関する事項を除き、全体評価に影響を与えるものではないと考えるため、全体としてA評価とする。

- 予め設定した「目標値」に達成したかしないかで評価をおこなっているものが散見された。しかし、評価は量より質を重視した評価方法もあるわけで、短絡的に数の多さで評価してはいけないと思った。特に、研究については質が重要であるとする。何年もかかる研究が殆どで、むしろ単年度で結果が出せてしまうものに良い評価はできないように思う。

- 岩手県工業技術センターの第4期中期目標期間の業務実績について、以下の4事項のほとんどの項目について計画通り進んでいる。

(ア) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項について

(イ) 業務運営の改善及び効率化に関する事項について

(ウ) 財務内容の改善に関する事項について

(エ) その他業務運営に関する重要事項について

今後さらに岩手の人、岩手の大地がイノベーションの源泉となり、社会の新たな価値を生み出し、それを社会に還元するためには、

オリジナルの研究シーズの強化、ならびに競争的資金の獲得の取り組みが求められる。

テーマ設定については、国内外の産業動向や技術動向を分析した上でのプロセスの見える化とアジャイルな見直しとそれに基づく計画変更がしやすくなるような制度設計が求められる。

岩手県工業技術センター技術ロードマップにおける、それぞれの項目毎に達成状況の確認と到達ビジョン達成に向けた取り組みの再検討をお願いしたい。

第5期の中期目標策定にあたっては、各種満足度の取り扱いについて再考が必要である。現状目標が80%であるのに対し、実績が97-99%であるものがほとんどである。この状況で第5期の目標を第4期と同じ80%とするのは、挑戦的なレベル設定とは言えない。満足度のモニターは継続し、評価項目としない、あるいはより挑戦的な目標にふさわしいような質問内容へと変更するなどが考えられる。